



陸密第

陸軍兵器本廠長

作戦用トシテ左記兵器調辦方取計スシ

左記 陸密第六四七號 昭和八年十月拾五日

一 装甲列車

所要經費ハ國防充備費兵器其他

整備備費ノ支辨トシ之レカ調辦ニ

関シテハ陸軍技術本部ト協議

コト

件名 装甲列車設計要領ノ件

通牒

副官ヨリ陸軍技術本部長へ

作戦用トシテ左記器材調辦方陸軍兵器

本廠長ニ被達タルニ就テハ別紙基礎條件

基キ設計要領書ヲ調製ノ上至急一〇部

提出セラレ度依命通牒ス

追テ之カ調辦ニ関シテハ陸軍兵器本廠

ノ協議ニ應セラレ度申添フ

左記

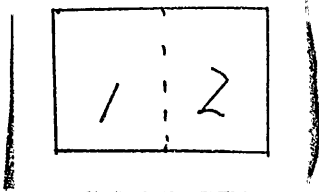

装甲列車 一

陸密第六四七號

昭和八年三月拾五日

陸軍

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上の尺
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3年 9月 5日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	



別紙

# 装甲列車設計基礎要件

管倉持

一、列車、編成左ノ如シ

警戒ノ為ニハ装甲軌道車ヲ先驅(要スレハ後驅)セシム  
速度ハ平地ニ於テ時速六〇ノ以上トス

## 二、裝備概要

- 警戒車 30<sup>c</sup>探照燈 2  
MG 2
- 火砲車(甲) 10AA 1  
MG 2
- 火砲車(乙) 10AA 1  
MG 2
- 火砲車(丙) 11式 2  
75AA 2
- 指揮車 30<sup>c</sup>探照燈 2  
MG 2
- 機関車
- 炭水車 MG 2
- 材料車 MG 2  
30<sup>c</sup>探照燈 1

區分	車種	火數	力		裝		備
			射	射	射	射	
警戒車	警戒車	重機	前側方射	全周射	全周射	全周射	側面ノ要部ハ十粒其他ノ粒トシテ改ルヘリ簡易ヤラシムルモノトス
火砲車(甲)	火砲車(甲)	二十高一重機	全周射	全周射	全周射	全周射	1. 火砲ハ運行間射撃シ得ルヲ要ス 2. 火砲四門ハ前方ニ對シ同時集中ヲ為シ得ルヲ要ス
火砲車(乙)	火砲車(乙)	二十高一重機	全周射	全周射	全周射	全周射	1. 指揮車ニ射撃ノ統一指揮ヲ必要ナル觀測設備各火砲車ニ各個機關ニ必要ナル觀測設備ヲ為ス 2. 戰時指揮ヲ爲シ各車輦間ニ一線ヲ設ク 3. 五〇粒無線ヲ裝備ス 4. 近距離機銃ヲ無線ヲ裝備ス 5. 近距離機銃ヲ無線ヲ裝備ス
火砲車(丙)	火砲車(丙)	八八式七高二重機	全周及高射	全周及高射	全周及高射	全周及高射	1. 各車輦ハ位置ヲ變換シ回轉シ又銃裝ヲ生スルモ支障ナキヲ要ス 2. 炭水ノ補給ヲ行フトナリ概ネ一五〇粒ノ運行ニ堪フルヲ要ス
指揮車	指揮車	重機	全周及高射	全周及高射	全周及高射	全周及高射	
機関車	機関車						
炭水車	炭水車	重機	側方及側防				
材料車	材料車	重機	後側方及				

全機要件

管房技

セシム

指揮車

30°探照燈 2  
MG 2

機関車

炭水車

MG 2

材料車

MG 2  
30°探照燈 1

砲車(丙)	指揮車	機関車	炭水車	材料車
式七高ニ	重機ニ		重機ニ	重機ニ
同及高射	全周及高射		側方及側防	後側方及高射
三〇〇〇	三〇〇〇		三〇〇〇	三〇〇〇

待ルヲ要ス

ルヘク簡易ヤラシムルセトス

測設備各火砲車ニ各個機關ニ必要ナル視測設備ヲ為ス  
 平材料車間ニ直通一回線別ニ火砲車甲乙間ニ直通一回線ヲ設ク

早ニ側方ニ對スルニ三ノ探照燈ヲ裝備ス  
 生スルモ支障ナキヲ要ス  
 ニ堪フルヲ要ス

火砲彈藥携行比率(百分率)左ノ如シ

高射用彈	特種彈	榴霰彈	榴彈	尖銳彈
				十
			六〇	四〇
1215	〇	〇		
			六〇	二〇
1000	一五	五		

1216



秘

三急

陸軍省 密受第一三三三三號

參謀本部 參密第五九八號第一

裝甲列車整備要件ノ件

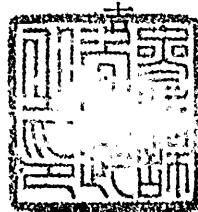
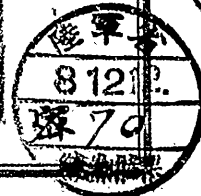
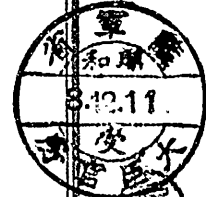
昭和八年十二月十一日

參謀次長 植田 謙

陸軍次官 柳 川 平 助 殿

昭和八年度整備スヘキ裝甲列車ハ概ネ別紙要件ニ準據セシムルヤウ  
取計ハレ度

別紙要件  
十二月十五日  
器材課



陸軍





1218

執行指定	決裁指定	保存期限
決裁	永久	

大臣	政務	次官	次官	主務局長	高級副官	書記官	審案
委員							
受番	密第一二六二號	陸軍省兵器局器材課	陸軍省兵器局器材課	陸軍省兵器局器材課	陸軍省兵器局器材課	陸軍省兵器局器材課	陸軍省兵器局器材課
件名	裝甲列車竣工検査ノ件						
受番	密第一二六二號						
了結	昭和三十二年九月四日						
領受	昭和三十二年九月四日						
出提	昭和三十二年九月四日						
領受	昭和三十二年九月四日						
號番	密第一二六二號						

政務次官  
參與官  
同付

決裁  
前後

連帶  
課名

銃

銃

銃

銃

銃

陸軍省

9.11.8

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍部

通牒

副官ヨリ 關東軍參謀長へ  
 豫南滿洲鐵道株式會社ニ於テ製  
 作中ノ 裝甲列車十一月月中旬竣工ノ  
 豫定ニ付陸軍技術本部ヲシテ別紙  
 第一ノ委員並豫定ヲ以テ現地ニ於テ  
 竣工検査ヲ實施セシムルハ、ニ就テハ  
 同部ヨリ別紙第二ノ 通牒 援助方希望  
 有之シニ付業務ニ支障ナキ範圍ニ  
 於テ成ル可ク便宜供與方取計ハレ度  
 依命通牒ス

進テ實施ノ細部ニ関シテハ陸軍技  
術本部ヨリ直接協議スヘキニ付申添フ

陸審第六七八號 昭和九年十二月拾四日

通牒

副官ヨリ陸軍技術本部長ノ

装甲列車竣工検査實施ニ関シ別紙  
ノ通牒東軍へ通牒セシニ付承知相  
成度

追テ細部ニ関シテハ直接関東軍ト  
協議セラレ度

陸審第六七八號 昭和九年十二月拾四日

一、技術本部長宛別紙ニ関東軍技術部長宛通牒ス

陸軍

1221

本件は西元1221年  
備前国赤松郡赤松村  
赤松氏に属す。其地  
赤松氏に属す。其地  
赤松氏に属す。其地

正計

印

別紙第一

官房控

陸

軍

昭和九年十月  
陸軍技術本部

九四式特種車輛試驗出張計畫書

出張者	期	摘要
工兵大佐 菅波易二 (通信學校) 工兵大尉 内田耕作	十一月中旬ヨリ 約六週間(往復共)	特種車輛試驗全般ノ統制、通信 照明施設、走行裝置並機關車、 炭水車、警戒車及電源車ノ機能 試験及綜合試験ニ任ス
工兵大尉 深山忠男	十一月上旬ヨリ 約四十五日間(往復共)	
工兵大尉 福田外次郎	十一月中旬ヨリ 約六週間(往復共)	
工兵二等機工長 加藤實吉	十一月上旬ヨリ 約四十五日間(往復共)	
工兵二等機工長 小林昌二	十一月中旬ヨリ 約六週間(往復共)	
職員 吉田豊吉	十一月下旬ヨリ 約二十日間(往復共)	
砲兵大佐 大角亨		

砲兵 中佐 権名 正 徒	砲兵 大尉 武田 文 雄	砲兵 大尉 川崎 基 孝	砲兵 大尉 小川 季 男	砲兵上等工長 大島 繁	砲兵上等工長 廣瀬 員 利
十一月下旬ヨリ 約三十日間(往復共)	十一月中旬ヨリ 約六週間(往復共)				
指揮車及火砲車ノ機能試験射撃 試験及綜合試験ニ任ス					

日	月	日(曜)	備考
32		十七日(月)	
31		十八日(日)	
30		十九日(土)	
29		二十日(金)	
28		二十一日(木)	
27		二十二日(水)	
26		二十三日(火)	
25		二十四日(月)	
24		二十五日(日)	
23		二十六日(土)	
22		二十七日(金)	
21		二十八日(木)	
20		二十九日(水)	
19		三十日(火)	
18		三十一日(月)	
17		一日(日)	
16	十二月	二日(土)	
15		三日(金)	
14		四日(木)	
13		五日(水)	
12		六日(火)	
11		七日(月)	
10		八日(日)	
9		九日(土)	
8		十日(金)	
7		十一日(木)	
6		十二日(水)	
5		十三日(火)	
4		十四日(月)	
3		十五日(日)	
2		十六日(土)	
1	十二月	十六日(金)	
			警
			重
			一
			重
			二
			軽
			指
			事
			機
			炭
			項
			電
			備
			考

九四式特種車輛試験予定表

リアトコルス変更リ依々況状ハ定豫本

別紙第二

九四式特種車輛試験ノ爲メ關東軍差出希望人員表

備考	歩兵隊	高射砲第三大隊		旅順重砲隊 (已今得十八野重九)	旅順重砲隊	野戰兵器廠	電信第三大隊	鐵道第三聯隊	差出希望人員	
		車揮指	車高七						將校	下士官計
一 差出期間ハ往復日數ヲ含マサルモノトス 二 十加車及七高車觀測手ハ測速機及砲隊鏡ヲ使用スルモノトス 三 各車機關銃要員トス 四 期間 自十二月八日 至十二月十五日	一	二	一	一	一	一	一	二	一	一
	二	觀測掛 通信掛	觀測掛 通信掛	分隊長	觀通掛 分隊長	銃工長 火工長	機工長 電工長	機工長 機工長 其他	機工長 機工長 其他	機工長 機工長 其他
	三	五	二	二	二	四	三	四	六	二
	四	機關銃手	高射砲觀測手 測速機手 通信手	砲手 觀測手 通信手	砲手 觀測手 通信手	砲手 觀測手 通信手	機工長 電工長 銃工長	機工長 機工長 其他	機工長 機工長 其他	機工長 機工長 其他
	五	一	四	三	三	三	三	三	二	二
	六	一	九	六	六	六	四	七	六	六
		七高車航速測定機手(三名)ハ指揮車 高射砲觀測手ニ含メルモノトス 二 期間 自十二月八日 至十二月十五日 三 通信下士官及兵ハ已ムヲ得サレハ旅順 重砲隊ノ差出トス	一 十加車要員トス 二 期間 自十二月八日 至十二月十五日	一 十加車要員トス 二 期間 自十二月八日 至十二月十五日	一 十加車要員トス 二 期間 自十二月八日 至十二月十五日	一 十加車要員トス 二 期間 自十二月八日 至十二月十五日	一 幹部ハ成ルハク昨年試験ニ参加シタ ルモノヲ希望ス 二 本表ノ外試験間列車内通信所 ノ對向所トシテ在新京其ノ他ノ軍 用電信所(九號機又八十號機發受) ヲ使用ス 三 期間 自十二月八日 至十二月十五日	一 幹部ハ成ルハク昨年試験ニ参加シタ ルモノヲ希望ス 二 本表ノ外試験間列車内通信所 ノ對向所トシテ在新京其ノ他ノ軍 用電信所(九號機又八十號機發受) ヲ使用ス 三 期間 自十二月八日 至十二月十五日	一 幹部ハ成ルハク昨年試験ニ参加シタ ルモノヲ希望ス 二 本表ノ外試験間列車内通信所 ノ對向所トシテ在新京其ノ他ノ軍 用電信所(九號機又八十號機發受) ヲ使用ス 三 期間 自十二月八日 至十二月十五日	一 幹部ハ成ルハク昨年試験ニ参加シタ ルモノヲ希望ス 二 本表ノ外試験間列車内通信所 ノ對向所トシテ在新京其ノ他ノ軍 用電信所(九號機又八十號機發受) ヲ使用ス 三 期間 自十二月八日 至十二月十五日

三 各車機關銃要員トス